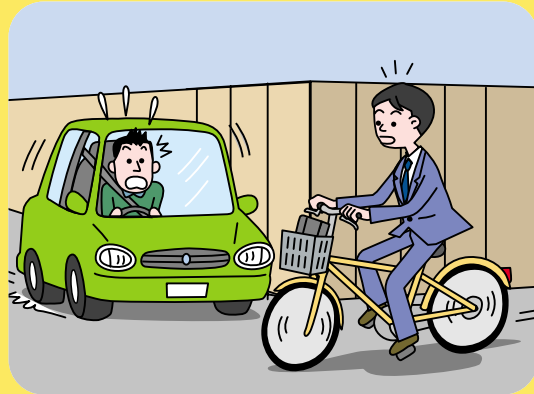


SJクイズ

[問題編]

Q1 平成22年の交通事故全体に占める自転車関連事故件数（自転車が第1当事者または第2当事者となった交通事故件数）は何%を占めているでしょう？

- ①約10% ②約20%
③約30% ④約40%

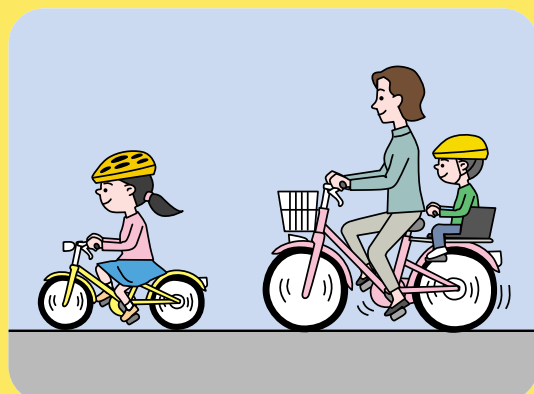


Q2 自転車関連事故件数で最も多い事故類型は、次のうちどれでしょう？

- ①正面衝突 ②左折時衝突 ③右折時衝突 ④出会い頭衝突

Q3 自転車乗用中の15歳以下の交通事故死傷者数で、最も多い損傷部位は次のうちどれでしょう？

- ①頭部 ②顔部
③腕部 ④脚部



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736



Q1 解答 ①約20%

<解説>

平成22年の交通事故件数は72万5773件。そのうち、自転車が第1当事者*または第2当事者*となった交通事故件数(自転車関連事故)は15万1626件と20.9%を占めている。交通事故全体に占める割合としては漸増傾向にあり、10年前の1.12倍となっている。また、自転車関連事故を当事者別にみると、対自動車が8割以上を占めている。

自転車利用者は車両を運転するという意識をもち、交通ルールを遵守することが事故の低減につながる。

*第1当事者=交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者又は過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者。

第2当事者=過失がより軽いか、過失が同程度の場合は、被害がより大きい方の当事者。

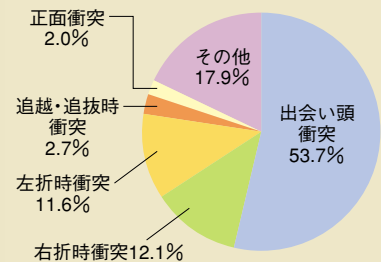
Q2 解答 ④出会い頭衝突

<解説>

平成22年の自転車関連事故を事故類型別にみると、出会い頭衝突が8万1412件(構成率53.7%)と半数以上を占めており、右折時衝突(構成率12.1%)、左折時衝突(構成率11.6%)と続いている。

信号機の有無にかかわらず、一時停止標識のある交差点や見通しの悪い交差点では、必ず止まって左右の安全を確認してから交差点に入ることが、出会い頭事故の防止につながる。一方、ドライバーやライダーは、自転車が一時停止や安全確認をせずに交差点に進入してくることを予測しておく必要がある。

●平成22年の自転車関連事故の事故類型別交通事故件数※警察庁資料



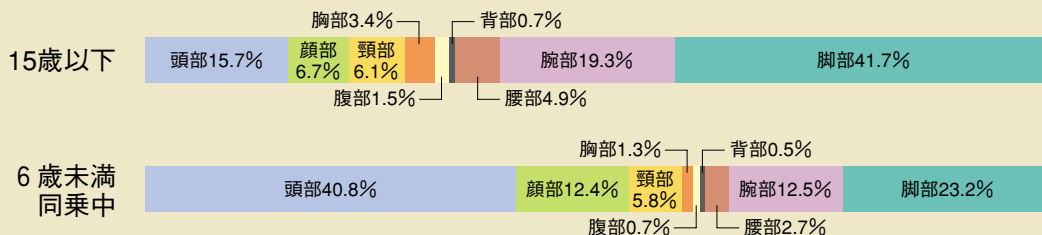
Q3 解答 ④脚部

<解説>

自転車乗用中の死傷者数を年齢層別・損傷部位別にみると、15歳以下では脚部(構成率41.7%)が最も多く、腕部(構成率19.3%)、頭部(構成率15.7%)と続く。

また、15歳以下のうち6歳未満同乗中の幼児に限ってみると、頭部(構成率40.8%)が約4割を占めている。子どもを自転車に乗せる時はヘルメットで頭部を保護する必要がある。道路交通法では、子ども(13歳未満)が自転車に乗る際のヘルメット着用が保護者の努力義務となっている。

●平成22年の15歳以下の自転車乗用中の損傷部位別死傷者数※警察庁資料



【使用上の注意】

●営利目的での利用はおやめください ●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください ●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください
本田技研工業(株) 安全運転普及本部 TEL: 03 (5412) 1736

